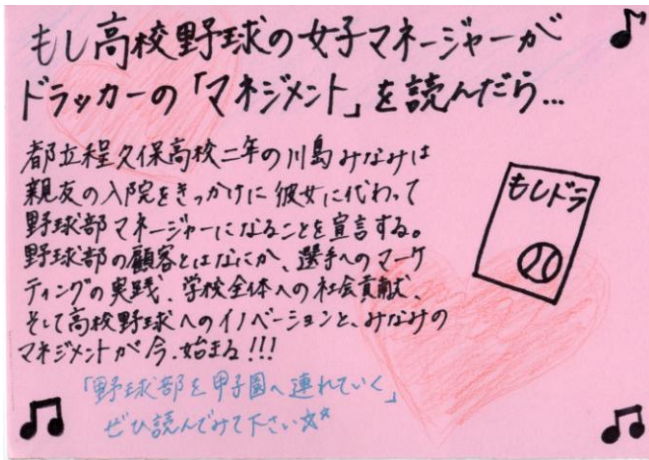
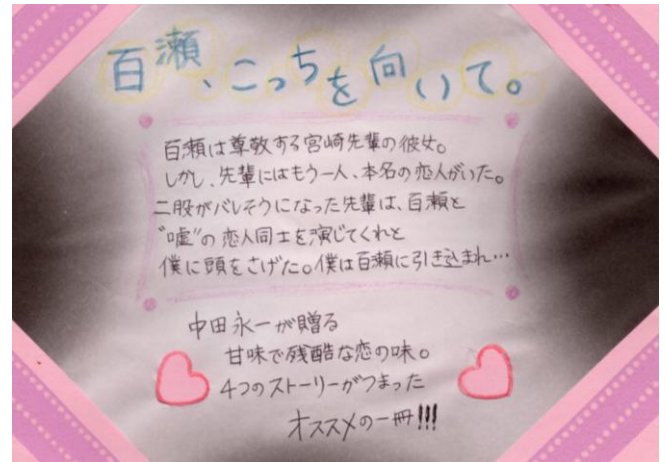


☆作品介绍☆ 志学館高校の生徒のPOPを紹介します

『百瀬、こっちを向いて。』
中田永一／著 祥伝社



『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』
岩崎夏海／著
ダイヤモンド社

お知らせ

【土曜日の開館時間が延長しました】

4月より、塩尻市立図書館本館の土曜日の閉館時間が変更になりました。試験的な試みとなりますが、18:00 から 20:00 に延長になりますので、平日は忙しく、なかなか図書館に来ることができないという方も、ぜひ図書館に足を運んでいただき、ゆっくり過ごしてもらえればと思います。

本館：開館時間

平日	10:00~20:00
土	9:30~20:00
日・祝日	9:30~18:00

特集：図書館に行ってみよう♪



新学期が始まりました。新入生、新受験生、上の学年に進級した人。部活や学校生活が忙しくて、なかなか図書館へ行く時間がない、という人も多いかもしれません。そんなみなさんに、図書館についてや、図書館をとりまく人たちの活動についてご紹介します。

図書館ってどんなところ

図書館は、小説などの本を借りたり、勉強をしたりするだけの場所ではありません。図書館は、みなさんにとって有益な情報をえることができる、また、情報をえるためのサポートをしてくれる場所です。

中高生のみなさんは、友だちや恋愛、勉強、家族、学校、自分自身、将来のことなど、何かしら悩みを持っているのではないのでしょうか。どうしたらいいのかわからない。考えないようにしています。相談できずに一人で抱えている。そんな人もいるかもしれません。

それだけではなく、おしゃれをしたい、楽しいことがしたい、どこかに行きたい、など活動的に過ごしている人も多いと思います。そういうすべての人に役に立つのが図書館です。

図書館には、たくさんの種類の本があります。本を読むことは、それを書いた人の話や考え方を聞いていることと同じです。何か知識を得たいとき、何かに悩んでいる人々の話や意見を聞きたいとき、直接誰かに話を聞くことはもちろんですが、本を読めば直接会えないような人の意見も聞くことができます。たくさん本を読むことでたくさんの人の意見や考え方を知り、自分の糧にしたり、答えを見つけたりできます。

そして、たくさん本の中から、みなさんが必要としている本を探す手伝いをするのが、図書館にいる司書の先生や図書委員の友だちです。「こんな本があるよ!」という紹介をしてくれたり、「なんかいい本ない?」に答えてくれたり、勉強に必要な本を用意してくれたり、みなさんをバックアップしてくれる人や場所なのです。ぜひ、この機会に図書館に足を運んでみませんか?



志学館高校では、図書館講座という企画をしていて、作品を作る講座や講演会などを開催しているそうです。企画をしたり、講師を探したりするのも図書委員のお仕事だそうですよ。

志学館高校の図書委員が作成した「POP」の一部を、学校の図書館に飾ったり、他の高校の図書館と交換展示をしたり、塩尻にある「中島書店」の店内に飾ってもらったりしているそうです。塩尻市立図書館本館の若葉のコーナーでも展示させてもらいました。

図書委員の活動紹介

—志学館高校の図書委員を中心に—



図書委員の人たちは、当番で本の貸し出しや返却をしたり、図書館だよりを作成したり、本屋さんに行き、学校の図書館に入れる本を購入したりしているそうです。

学校図書館日々あれこれ

前年度から、市立図書館で働いている司書が、市内小中学校の学校図書館へ出向き、仕事のお手伝いなどをしました。みなさんの中には、図書館で見かけたり、話をしたりした人もいます。今回は、昨年度学校図書館に足を運んでいた藤木さん、青山さんに学校図書館で感じたことをあれこれ書いてもらいました。

市立図書館司書 藤木さん

学校では司書の先生と一緒に仕事をしたり、図書館についての話をしたりしています。学校に行くと「へえ～。こんな本が出版されているんだ」とか「この本、今でもみんなに読まれているんだ」とか知らない本や懐かしい本に出会える楽しさを感じます。

どの学校も、休み時間になると生徒が図書館に集まり、カウンターは貸し出し待ちの列ができています。そんな様子を見ると、「読書離れと言われるけれど本が好きな子はまだまだいっぱいいるよね」と安心します。

また、図書館には「本はあんまり読まないけど、先生と話すのが楽しい」という子たちも多くなります。私も小学生の時、図書館の先生と話すのが楽しくて図書館に通いました。学校図書館に行くようになって、図書館は知識を得る場だけでなく、コミュニケーションを楽しむ場でもあると再確認しました。

☆お仕事ナビ☆

今回の職業は 小学校教師 です。

ナビゲーターは・・・

小学校で働いている
横川 さんです。



将来の職業選択の参考になるように、さまざまな職業につく身近な人たちを紹介していきます。

1. どんなことをしているのか、仕事の内容を教えてください。

子どもと一緒に過ごし、学ぶ、遊ぶ、考えることをしています。他にも会議、おたよりや報告書などの作成といったデスクワークもしています。

2. 教師の仕事に就いたきっかけや、なりたかった理由を教えてください。

小学生の時に出会った先生と過ごした時間がとても楽しかったのがきっかけの一つです。何か特別なことをしたわけではないですが、その時の印象が強く、高校生の頃には、この職業を選んでいました。

3. 中高生のとき好きだった本やよく読んでいた本、熱中していたことなど教えてください。

高校生の時は、平日だけでなく休みの日も部活に費やすくらい熱中していました。

4. やりがいを感じたり、楽しい・うれしいと思ったりするのはどんなときですか。

子どもたちや保護者の方から「ありがとうございます」と言われる時や、一緒に取り組んでいて子どもが笑顔でいる時です。そこへたどり着くまでにはたくさんの努力や大変だな—と思うこともあるけど、笑顔で過ごしているところをみると、こちらもうれしい気持ちになります。

5. 教師の仕事をめざす中高生に、メッセージやアドバイスをお願いします。

この職業は「とにかく子どもと一緒に楽しく過ごす」のが一番です。専門的な知識も時には必要ですが、それ以上に、楽しく過ごすことが最も大切です。熱中して取り組める人ならきっとこの職業で楽しく仕事ができると思います。夢に向かって頑張ってください。

教師の仕事についてのっている本です。参考にどうぞ。

松井大助(2010).『学校で働く人たち』ペリかん社

三井綾子(2012).『教育者という生き方』ペリかん社

森川輝紀(2010).『小学校教師になるには』ペリかん社

市立図書館司書 青山さん

私は、普段えんばーくにいますが、定期的に市内の学校に伺い、司書の先生と一緒に仕事をしています。

いろんな学校を見ていると、定番の本の間に、「おっ！」と目を引く、ちょっと変わった本を見つけることがあります。司書の先生に聞いてみると「何年か前に、その本が好きな生徒に、リクエストされて買ったの」との事。

購入した時は「他の生徒は借りないかも…」と思ったのですが、妙に評判がよくて、今ではこの本を好きな生徒がたくさんいるそうです。その生徒がリクエストしなければ、並ばなかったはずの本がずっと図書館に残って、他の誰かの好きな本になっている。それって、なんだかとても素敵ですね。本の数だけ出会いがあって、これからも続いていく。そんな、学校図書館へ行きはじめたことで得られた感動により、ますます図書館が好きになりました。



☆縁パークしおじり☆

みなさんに塩尻に関することや、塩尻に縁のある人を紹介していきます。

今回のテーマ

「塩尻市の民話を知ろう」

—でいだらぼっち—

みなさんは「でいだらぼっち」の民話を聞いたことはありませんか？ 昔、この松本平一帯を中心に暮らしていたという大男「でいだらぼっち」の民話について詳しく知りたい！ という要望があったので、今回は、「でいだらぼっち」の民話を調べてみました。

どんなお話？

でいだらぼっちがつくったとされている山についてのお話がいくつかありますので、ご紹介します。

- ① 大むかし、高い山々をひとまたぎしてきたデラボッチは、片足をずぶりと諏訪湖に踏み込んでしまった。そこで、この水たまりを埋めてやろうと、八ヶ岳の土を運んでいた。ところが、泉野と玉川の境あたりにきたとき、担いでいた棒が折れてしまった。そのかたき落とした二つの土が、大泉山、小泉山だといわれている。
- ② デラボッチは、蓼科山を富士山のようなかたちのいい山にかえようと、大きな土を担いで山をひとまたぎひとまたぎ越えてやってきた。ところが、暑い日だったため、諏訪湖につかかって体を洗いたいと思ったが、諏訪湖は浅く、デラボッチの足首ほどもなかった。そこでデラボッチは、西の塩尻峠を枕にして、寝てしまった。目が覚め、土を蓼科山に盛りあげようとしたが、土は根づいてしまい、持ち上げることができなくなった。そのため、デラボッチはあきらめて、担いできた土を置きざりにしてどこかに行ってしまった。それが大泉山、小泉山だという。

でいだらぼっちって？

でいだらぼちは、地域によってさまざまな名前と呼ばれています。その由来を調べてみました。

- ① だいたいぼう、だいたらほうし、だいたぼっち、でいらぼっちなど地方のなまりによって変化し様々な呼ばれ方をしている。
- ② 漢字で書くと大太郎、大太法師、大太郎法師などで、柳田國男によると大太郎とは大人(おおひと)を意味する。
- ③ アイヌ語の「ダイ(小山)」と「タラ(背負う)」から生じたという説などが論じられている。

- ③ むかしデラボッチが、東山の神さまにたのまれ、東山を西山より高くしようとした。そこで、西山の神さまが目を覚まさないうちに西山の土を東山へ運んでいた。しかし、もうひとザル運びたいというときに、ニワトリが鳴き、夜が明けてしまった。なにより朝が苦手なデラボッチは、その時運んでいた土をなげ出し、山を越えて消えてしまったようだ。そして残った土が、安曇の室山むろやまだという。
- ④ 大男のでいらぼちちは大きな山を背負って、やってきた。ちょうどここまで来たが、さて、木曽の方へ行こうか、それとも諏訪の方へ行こうかしばらく考えていた。ところが、山があまりに重かったため、背負っていた藤ふじづる蔓(藤でできたつる)がぷつりと切れ、山がどずんと落ちてしまった。気の短いでいらぼちちはカンカンに怒ってしまい、切れた藤蔓を丸めて力いっぱい投げ捨てた。藤蔓はみるみる飛んでいき、落ちた場所が今、本洗馬の藤塚だといわれ、落ちた山が比叡の山といわれている。この出来事があってからというもの、桔梗ヶ原には藤は生えないという。

※ 呼び方は、掲載されている名前そのまま使用しています

<参考図書>

- 志村有弘(2011).『日本ミステリアス妖怪・怪奇・妖人事典』勉誠出版
山下昌也(2010).『図解日本全国おもしろ妖怪列伝』講談社
塩尻史談会(1975).『塩尻の伝説と民話』塩尻史談会
はまみつを(2006).『信州の民話伝説集成 中信編』一草舎出版
はまみつを(2011).『信州むかし語り2 山と民の話』しなのき書房

☆ごあいさつ☆

すっかり春です。みなさん、新しいステージで思い思いの決意をもって、スタートをきったのではないのでしょうか。市立図書館でも新しい人が増え、気持ちもあらたに4月が始まりました。新しく、中学校や高校生活がスタートしたみなさんは、頑張りすぎないようにときどき息抜きもしてくださいね。えんぱーくにも、図書館にも、ぜひ遊びにきてくださーい！！ (^0^)/

(中村)

